



## 後記

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-07-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/7853">https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/7853</a>

## 後 記

情緒障害教育教員養成課程（1年課程）は平成2年度、10周年を迎えました。本課程は特別専攻科への昇格を見込み、それに準ずる教育課程を組んで、昭和56年4月に臨時課程として設置されました。修了生159名のうち、103名65%が障害児学級担当者、じつに143名90%が教育・福祉領域の仕事に従事しています。また、北海道教育委員会派遣の現職員は、70名44%で、その内90%が障害児学級担任者となっています。

この進路状況を見ますとき、これまでに惜しみない援助を与えてくださった旭川をはじめ、全道・全国の親・親の会、教育・福祉関係者、関係学校・施設機関からの、絶大なご協力によるものであることを痛感いたします。

また、講師陣には教育現場、医学臨床現場の第一線の方々をお迎えして、実践・臨床に根ざした講義をいただき、今日にいたっております。

つけくわえなければならないのは、北海道教育大学旭川分校の教官・職員陣の協力です。研究論文を必修として、個別指導を行い、毎年、全員の論文を「情緒障害教育研究紀要」に掲載するといった努力は、旭川分校全体のご理解がなければ、なしうることはありませんでした。

ここにあらためて、関係各位の10年にわたるご協力・ご援助に対し、衷心より厚く御礼申し上げます。

さて、本「情緒障害教育研究紀要第10号」は、稚内北星短期大学学長の木村謙二先生から、北海道特殊学級の草創期に関する論文をお寄せいただき、巻頭を飾ることができました。また、旭川、帯広、函館、苫小牧、剣淵の障害児教育担当者から、各地の个性的でかつチームワークのとれた実践研究をお寄せいただきました。修了生の各地での活躍ぶりを知ることができ、私どもの大きな喜びであります。10期生8名の研究論文6編を加え、ここに10周年記念号としてまとめることができ、非常に意義深い紀要となりました。

いまや紀要1号から10号までに掲載された論文総数は204編を数えます。

さる平成3年2月9日には、95人の方々の参加をえて、情緒課程10周年記念研究会を開催することができました。午前中には10期生8名の研究論文発表会を行い、午後には北海道各地の情緒障害教育実践報告会として、旭川から日章小学校の桜井清隆先生、常盤中学校の鈴木実加子先生、帯広から明星小学校 横浜ミエ先生、札幌からは東栄中学校 小泉雅彦先生に各々の地域の実践報告をいただきました。引き続き「北海道の特殊教育の将来と情緒課程への注文」と題して、星置養護学校長 岡田信一先生、旭川市立東町小学校教頭 中村久弘先生、北海道教育大学札幌分校教授 後藤守先生、北海道立特殊教育センター室長 佐藤満雄先生から、率直にして非常に意義深いご指摘と展望が示されました。

さいごになりますが、課程の将来について修了生から寄せられたアンケート50余通のうち、1、2の意見保留を除いて、いずれも課程の将来発展を願うものでした。地域・現場のニーズと修了生の願いに答えるべく、教官一同、こころを新たに障害児教育の充実に取り組んでまいりたいと存じます。皆様の一層のご指導と、ご鞭撻をお願い申しあげる次第であります。

1991年3月15日

小田切 正  
末岡 一 伯  
伊藤 則 博  
古川 宇 一